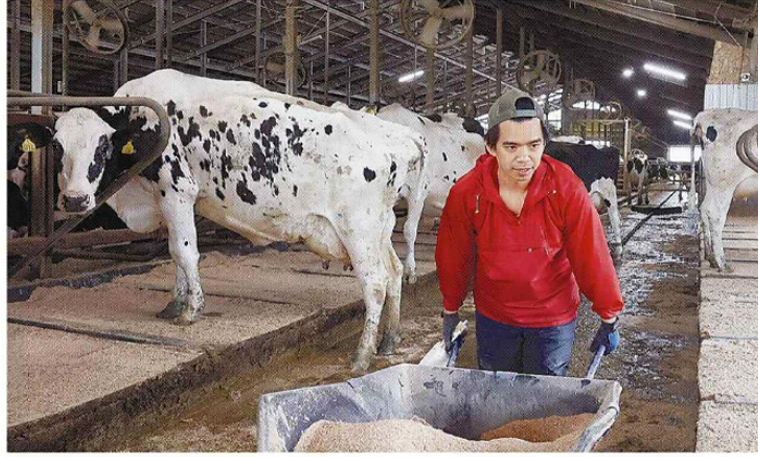




年 組 名前

道新 ワークシート

別海町内の牧場牛舎で酪農ヘルパーとして働くラルフ・イパーラさん＝6月29日



酪農助っ人にフィリピン人

別海の法人 特定技能者を派遣



【別海】根室管内別海町で乳牛約250頭を飼養する農業法人「日野ファーム」は、農業分野で特定技能の在留資格を持つフィリピン人を、酪農ヘルパーとして月額契約で派遣する事業を始めた。日野裕一社長(50)は「慢性的な働き手不足の解消と、酪農の現場で働くフィリピン人の生活向上を両立させる」と意欲を示す。年内には10人程度派遣できる体制にしたい考えだ。J A北海道中央会によると、外国人の酪農ヘルパー派遣は珍しく、酪農家が自ら手がける例も少ない。

別海では、日本人ヘルパーを派遣する道東あさひ農協子会社「ASAHIサポートセンター」など複数業

者がヘルパーを抱えているが、その数は30人ほど。「学校行事が集中するとヘルパーの依頼は増えるが人数が足りず、休みを諦めざるを得ない人もいる」(小島友喜専務)のが実情で、日野社長は持続可能な営農を実現しようと、ヘルパー派遣を始めることを決めた。

外国人ヘルパー登用の最大の課題は言葉の壁とされ、派遣先ごとに作業環境が異なり、他の従業員への引き継ぎも必要なためだが、日野社長は長年、フィリピン人を受け入れてきた実績がある。今も従業員6人のうち2人はフィリピン人の技能実習生と特定技能の資格保持者で、自身の妻テレシタさん(57)もフィリピン出身だ。

フィリピン人男性ヘルパー2人が搾乳や清掃などに汗を流し、さらに男性2人、女性1人が研修中だ。

依頼者が計画的に休日を取りやすくするため、派遣は月ごとに希望日を予約する定額契約とした。1回10時間とし、月3回で5万5千円、月6回で10万4500円、月12回で20万3500円のプランを設けた。日野社長は「家族経営の場合は従業員を雇いづらい。仕事に追われ、経営について考える時間がなくなる人もいる」と指摘し、ヘルパー活用を呼び掛ける。

ヘルパーとして雇用する場合は日野ファームで2カ月以上研修した上で、外国人材への支援を行う「KUROFUNO」(名古屋)による日本語教育などを経て、現場に出てもらう。

事業は試行期間を経て5月に本格稼働。別海町と釧路管内浜中町の計4戸でフ

農業職種の「特定技能1号」の在留資格は最長5年だが、政府は永住や家族帯同が可能な「特定技能2号」の対象に農業を含める方針だ。2017年から日野ファームで働き、今年5月から酪農ヘルパー専属となったラルフ・イパーラさん(29)は、「ヘルパーは牧場経営についていろいろ学べる。将来は家族も呼び、日本で働き続けたい」と話す。

(小野田伝治郎)



道新で ワークシート

年 組 名前

① 外国人ヘルパー登用の課題は何か。記事を参考に書きなさい。

② 外国人に日本で長く働いてもらうために、どのような制度の変更がなされる予定か。
記事を参考に書きなさい。